

法科大学院「適性試験」

当校講師による
解答・解説
今後の適性試験対策のご参考
にしてください！

大学入試センター 2004年6月27日(日)実施試験

これらの問題別の解説ページは、都合によりプリントアウトができません。ご了承ください。

当校講師の解答・解説が市販書にて発刊！

河合塾ライセンススクール講師陣による 2004 年実施「適性試験」の解答・解説が
法学書院発行の月刊誌「受験新報 2004 年 9 月号」(2004 年 8 月 1 日発行)に登場！
大学入試センターの全問題と、日弁連法務研究財団の第 1・2 部の一部問題について、
問題付きで掲載されます。ご興味のある方は、ぜひお求めください！

右の写真は、同雑誌 2004 年 7 月号です。



第2部 ● ● 読解・表現力

第1問

【全体コメント】 きわめて一般的な形式の空欄補充・内容把握の問題であると考えていいだろう。問1の A の
選択肢の語句が、2つにまとめられる。まず、A にあてはまる選択肢を考えていくのがポイントである。問2は
本文の「一般化(拡大的転用)」が何を言わんとしているかに気付けば大丈夫である。

問1 正解

選択肢に出てくる言葉の意味は、

「形態」——ある構造を備えた物事を外からとらえた形

「状況」——刻々と変化して行くものとしてとらえた、その場や地域の様子

「機能」——目的に応じて分化した働き

「目的」——行動する目標として考えられた、そうしたい何事か

である。これに当てはまる記号は A「形態」B「状況」C「機能」となるので、答えは である。

問2 正解

一般化(拡大解釈)は一部で全体を指すか、種概念で、類概念を表す。と本文で解釈しているので、それに
合う内容の選択肢を探せばよい。

「おうよう」は鷹が飛び揚がるさまと大様との混同されてできた言葉なので間違いである。

「あんばい」は料理の味加減から、さらに広い意味の物事のぐあいや健康状態の意となっているので、正解。

「さかな」は酒を飲む時に食べるものの意味から、逆に食用の魚の意となり、逆に限定されているので間
違いである。

「大将」は一軍の統率者の意から、同輩以下の者を親しんでいう語に変わったので、一般化にはあてはま
らない。ゆえに、間違いである。

「しあわせ」はよい、悪いの評価に関わらなかったものが、よいめぐりあわせの意に変わったので、一般化
にはあてはまらない。ゆえに、間違いである。

第2問

【全体コメント】 基本的な文章整序問題ではあるが、解答を選択肢から選ぶのではなく、全体の問題を問う問題であったため、本文の意味を正確に理解しておかなければ解けない問題となり、正答率はあまり良くなかったであろう。

問 正解 → → → →

「ジェンダー」という言葉がキーワードとなり、 の文頭で「ジェンダーという言葉が日本に入りはじめたのが、1980年代の後半、学問の領域に入りはじめたのは80年代前半ぐらいのことです。」と「ジェンダー」を紹介する上での導入として、もっとも導入しやすい文がきているので が最初となる。 の最後の一文で、「セックス」と「ジェンダー」の違いについて述べている。この後に続く文として、 の「これはどういう意味があるか考えてみましょう。」が続く。なぜならば、 の文頭の「これは」は「セックス」と「ジェンダー」の違いを指しているからである。 はこの文章についてのまとめが書かれている。 と は の最後の一文で、「つまり、子育てを誰がするかは社会的な性差、社会的にこうでなければならないと人が考えているというレベルのものであって、生物学的に決まっていることではない。」のあとに、 の文頭がくるべきである。したがって、順番は となる。

第3問

【全体コメント】 空欄補充と要旨把握問題であるが、本文の内容を掴むことが難易な問題となっている。「行為と非行為に意志の有無はあるか」という問題提起に則した文章だということに気づけば正解が導き出せる。

問1 正解 A B C D E F

対話形式になっていますので、後に載っているもう一人の発言に注意していけば解ける問題。

A の後には でも、何か「意志する」としか言いようのない心の状態があるんじゃない？ と書かれている。「でも」と接続語が来ているので、その内容と逆の発言、「意志なる心の状態など、ない」がもっとも適切。

B の後には、「それ、むちゃくちゃだよ。」と書かれてある。人が聞いてむちゃくちゃだと思う発言は「意志のあまり思わず腕が上がってしまった」である。

C の発言の後には、「まあ、「恐怖する」とは言わないけど、「意志する」とは言うからね。」と前者の発言をまとめている。よって、「腕を上げようと意志したりしなかったりできる」が正しい。

D・E の発言の前には、「つまり」と前で言った事柄をまとめる内容がくるといいので、D は「それは君の意志が動力となって生じた動きでなければならない」が答えとなり、E は「腕を上げよう」という意志も、再び君の意志が動力となって生じた心の動きでなければならない が答えとなる。

F の場合は、意志することの能動性を言うために、「 F 」と言わなければいけないってわけ？ にあてはまるものなので、 の「意志することを意志する」が正解。

問2 正解

この文章で作者がもっとも言いたいことを選択肢から選べばよい。作者は意志の有無と行為と非行為は区別できないといっているので、正解は 。

第4問

【全体コメント】 要旨把握の問題である。鶴亀算は何かということを知っている人には解きやすい問題だったが、そうでない人には鶴亀算と鷹虎算の違いが見えづらかったのではないかな。

問 正解

答えの組み合わせが 1 組で決まってしまうものが鶴亀算。2 組以上出てくるのが鷹虎算である。よって、はツルが 2 羽、カメが 8 匹。 はタカ 2 羽、トラ 8 頭。 タカの平均体重は 3 キロと決まってしまうので、 と は鷹虎算ではない。

第5問

【全体コメント】 やや長めの文章に対して小見出しをつける出題であるが、これも適性試験ならではの出題形式と考えることができるだろう。小見出しを考察する問1以外については、空欄補充や内容合致問題など、基本的なものに終始しているため、スムーズに正解を導いていくことが可能である。長文に対する小見出しを考える問題は、今後の適性試験においても出題される可能性はきわめて高いので、文章全体の流れの確認および各部分のアバウトな内容把握の方法を明確に理解し、習得しておくことが必要であると考えられる。

問1 正解 A B

小見出しの問題である。A は〔1〕〔2〕の内容を、B は〔3〕〔4〕〔5〕の内容を大まかにまとめるとよい。前半は産業化の先発国と後発国の違いについて述べ、後半では、産業化の後発国がいかに先発国に追いついていったかについて書かれているので、A B が正解となる。

問2 正解

C の前文がヒントとなる。前文では後発国が先発国をただ真似すれば産業化に成功を得るというが、それだけでは十分ではないと書かれている。さらに、C の前に、「なぜなら、もしそうであるなら」という語句がきて、C のあとには、後発国による先発国の追い上げはけっして、簡単に進んだわけではないという内容が書かれているので、 があてはまる。

問3 正解

後発国の教育は〔2〕の文中に、「後発国であった日本は先進国に比してテクノロジーのギャップが大きかったため、それをはやく埋める必要から、イギリスのように現場の職人の経験に依存せずに大学出の技術者に依存した、という違いを指摘しています」と書いてあるので、正解は である。

問4 正解

ガーシェンクロンやドーアの説を用いて、非西洋国の近代化の問題は作者が付け加えているので、正解は となる。

第6問

【全体コメント】 ヨーロッパの中世時代の芸術家の誕生について書かれた文章であるが、内容把握がしっかり取れていれば、問題自体は難しくはない。

問1 正解

要旨を問う問題であるが、本文中の最後の一文で、「デッサンの技芸家」という視点で同一のカテゴリーのなかにとらえ、しかもそこに知的・精神的活動が含まれるがゆえに単なる職人仕事ではないと位置づけたところに、ヴァザーリの試みの画期的な意味があった。われわれはまさに「芸術家」の誕生に立ち会っているのである。と書かれてある。このことともっとも内容が合致するのが ⑤なので、⑤が正解である。

問2 正解

第3段落の働きは第 1・2 段落の説明を踏まえて、その当時の状況とヴァザーリの主張を補足している。作者は肯定的にヴァザーリの主張を述べているので、⑤が正しい。

第7問

【全体コメント】 標準的な文章整序問題。文章は平易であり、全体の構成が示唆されている（「最初に問題を提起し、最後に結論を示すひとまとまりの文章として完成させたい」）ので、解答しやすい問題であろう。

問 正解 ② → ③ → ④ → ⑤ → ①

与えられた 6 つの選択肢のなかで、問題提起の文章と考えられるのは、介護保険制度のなかで要介護認定が持つ重要性を指摘したうえで、本来どの市町村に住もうと差が出るはずのない要介護度に現実には大きな地域格差があると述べて「問題」の所在を示す ② である。次に来るのは、この問題に関するデータを与える選択肢であろう。そうした内容を持つものは ③、④ であるが、それらのあいだの関係を考えると、最初に来るのは、要介護認定を申請した高齢者数と高齢者人口に占める割合、都道府県別の申請率を与える ④ であろう。大事なのは、ここで与えられている数字は「認定の公平性」に関わるものではない、ということである。「認定の公平性」に関わり、それゆえ筆者の目に介護保険制度の問題点と見えるものが示されるのは ③ であり、そこでの議論は ② を前提としたものであるから、③ および ④ は ② より後である。その ③ と ④ から、申請率の高い地域で認定される割合が低く、認められる要介護度も低いことが「問題」の具体的な内容であることが理解されるが、③ の「要介護度についても」という表現から、③ → ④ という先後関係は明らかである。次に来るのは、③ と ④ で述べられた内容からどのようなことがわかと筆者が考えているかを要約的に述べている ⑤ であろう。そして、⑤ とほぼ同じ内容を繰り返したうえで、地域格差の問題の重要性を強調する ① が結論であると考えられる。よって、正しい順序は ② → ③ → ④ → ⑤ → ① である。

第8問

【全体コメント】 下線部の意味内容と文章全体の要旨に関する問題。与えられた文章の議論はそれほど難解ではないが、選択肢に紛らわしいものが含まれており、慎重な取り扱いを要する。

問1 正解

筆者は現代の日本社会に対して、動物的「自然」に滑り落ちるのを防ぐ手段としての偽善を勧めているのだから、本居宣長によって先駆的に定式化された偽善への批判に対しては否定的な見方をしていると考えられる。したがって、の「忘れられていた日本人の素直な「真情」を正しく再評価した発言」、の「表面ばかり高尚ぶっている知識人を庶民の実感から否定した率直な発言」、の「欲望肯定が当たり前になった現今の日本の世相を適確に言い当てた鋭い発言」は不適当である。また、の「欲望肯定の時代をもたらすことになった元凶といえる問題発言」は、宣長に対する否定的な評価であるが、筆者は宣長の発言が後世、特に現在における偽善を否定して「真情」を肯定する風潮の原型であると考えてはいるが、そうした風潮が宣長の発言によってもたらされたとはまでは言っていないので、不適当であろう。正解はの「倫理規範に無頓着な日本人らしい感性を公にした、実は陳腐な発言」となる。これは「現代に何が容易か」といって、偽善を嘲笑する程たやすいことはない」という本文の記述とも整合的である。

問2 正解

「倫理的規範意識の根強いカルチュアにおいて偽善がどのような役割を果たしているか」を考えることで、正解に近づけるだろう。倫理的規範意識の根強いところでは、たとえ本当は善い人間でなくとも、善い人間であるかのように振る舞わねば社会に受け入れてもらえないわけだが、それと同じように、日本の精神風土においては「露悪的にふるまうこと」すなわち偽善が「もっとも安易に周囲の信頼をうる途」である。「信頼をうる」に対応する表現を含む選択肢は、の「悪いと知りながらわざとそれをやっているだけ、何が悪いということは分かっていると見られるから、信用できると受け取られる」との「わざわざ悪いことをしているのだから、善悪にはこだわらない「無礼講」的な付き合いも辞さない」と見られ、相手に「話せる相手だ」と受け取られる」であるが、偽善に対する「偽善は善の規範意識の存在を前提とするから、そもそも善の意識のない状態にまさること万々」という評価を考慮すると、最も適当なものはであると考えられる。

問3 正解

2つめの段落をよく読むことで、正解を導き出せるだろう。筆者は、偽善は(善それ自体ではないとしても)善の意識のない状態よりも望ましい、と考えているのだから、正解はの「もともと倫理規範を持たない精神風土において、欲望の解放に走ってしまった現代の日本社会では、ことさら「善」を装うことででも善の規範を意識することは意義が深いと考えるから」である。の「まだしも「偽善」的であることの方が、他者に対する害は少ない」については、善を装うことが他者に及ぼす影響についての記述は本文にないので、不適当である。の「「偽善は」神にも動物にもないものであり、その意味で「偽善」こそ人間らしさを表すものであって、人間性が見失われている欲望肯定の時代においては、何よりも大切なことと言える」は、誤りではないが、一般論に終始しており、「偽善」がさらに大きな積極的意味を持つとされる日本社会の特殊性に関する記述を欠いているので、最も適当なものとは言えない。の「借り物の「外来」の規範によって、善の規範意識を形成してきた日本においては、倫理的な規範は当然人の自然な心に根差すものではなく、「偽善」という形を取らざるを得ないことを再認識すべきだと考える」は紛らわしいが、筆者に「偽善」を勧めさせた背景である「現代の日本社会」に関する記述を欠いており、不十分である。問題は、の内容をなぜ現在認識すべきか、である。の「「偽善」の中に実は本当の善なる行いの芽が芽生えてくる」という考えは問題文では表明されていない。

第9問

【全体コメント】 自然科学に関するエッセーを読み、その内容に関して答える。本文の記述に合致する図を選ぶ問2が新鮮だが、論旨は明快なので解答は容易であろう。

問1 正解

問題文中の対応箇所を見つければ、正解は明らかだろう。 の「ニュートンは白色光がプリズムごとに異なった角度で屈折することを示した」については、本文には「プリズムは(白色光を構成する)さまざまな色の光を、それぞれ異なった角度に曲げることによって分ける」と述べられているものの、「白色光がプリズムごとに異なった角度で屈折する」というような記述はない。 の「実験室における厳密な条件下で白色光から人工的な虹をつくり出したのはニュートンが初めてであった」は、本文の「プリズムを使って人工的な虹をつくり出したのはニュートンが最初ではない」と整合しない。 の「ある人たちは、人工的な虹はプリズムを通して自然の虹とは異なる性質になると考えていた」については、本文には自然の虹の性質と人工のそれを比較対照するような箇所はない。 の「ニュートンは第2のプリズムを逆さにすることで、光の性質が元に戻ることを決定的に示した」については、第2のプリズムを逆さにしたのは、分割された状態にある白色光の要素を合成して元の白色光を現出させるためである。「光を2度プリズムに通す実験によって...プリズムによって光の性質が変えられたのではなく、普段は合成されている諸要素が分けられたのだということが示された」という記述と併せて考えれば、 が不適当であることは明らかである。これらに対し、 の「プリズムを通過することで光の性質が変わると考える人がいた」は、本文の「しかし、これは無理もないことながら、プリズムによって、光の性質が変えられてしまうのだと考える人々もあった」と合致する。

問2 正解 a b c

下線部 a に対応する図は ~ のいずれかであるが、ポイントは「プリズムが太陽光をガラスに入り込む時と空中に通り抜ける時に屈折させる」こと(下線部に述べられている)、「プリズムは(白色光を構成する)さまざまな色の光を、それぞれ異なった角度に曲げることによって分ける」こと(下線部より少し先の部分で述べられる)である。 は光の屈折が1度だけであるし、 は異なる色の存在を表わしていないので、不適当である。下線部 b に対応する図は と のいずれかである。「赤色光を2番目のプリズムによって屈折させる」を、下線部より前にある「青は赤よりも大きな角度で曲がる」と併せて考えれば、曲がり方の大きい光がスリットによって遮られている が正解となる。下線部 c に対応するのは ~ のいずれかであるが、本文に「第2のプリズムを逆さにしてみせた」とあるので は不適当である。また、「第1のプリズムによって扇状に広がったスペクトル光は2つめのプリズムによって再び集められることになる。現れたのは再構成された白色光であった」とあるが、白色光が再構成されるためには分割された光のすべてが合成される必要があるので、 は不適当である。

第10問

【全体コメント】 空欄に適切なフレーズを補充し、下線部の内容を具体的に示す対象を選ぶ問題。よく知られた論題であり、文章も平易なので、解答しやすい問題であろう。

問1 正解

空欄 A については、空欄前の「市街地建築行政、再開発行政の側も」と空欄後の「商業行政と建設行政の間に齟齬はなかった」が鍵になる。「商業行政と…齟齬はなかった」が「市街地建築行政、再開発行政の側も…進んでいた」だけでなく前の部分をも受けての主張である(つまり、「市街地建築行政、再開発行政…進んでいた」は建設行政について述べたものである)ことに注意したい。また、「個店集積型の都市空間イメージ」と「街路に沿った賑わいを形成するイメージ」の関係が前文の内容(「戦災復興区画整理によって整備された街路網をベースに商業近代化事業の支援を受けながら家業型の商業が発展し、中心市街地の賑わいを成立させることに成功してきた」と整合的であるはずなので、 ① の「修正しつつ」、 ② の「拮抗させつつ」は不適当であろう。空欄 B については、空欄を含む文の後を読むことで、それまでの内容(より具体的には、「中心市街地から大店が撤退し、それがあたかも中心商業の危機であり、中心市街地の危機であるかのように言われ始める」)のどの部分を否定しているかが明らかになるだろう。「家業型の商業の足腰がしっかりしており、時代の趨勢に合った店舗展開を遂げることが可能だったら、街路に沿った賑わいを復活する絶好の機会が再び到来したと考えられるはず」、「だが…大店の動向に関わらず、道沿いの商店街は消えていく」とあるので、筆者は「中心商業は危機であるが、その原因は大店の撤退ではなく、別のところ(商業構造・小売流通形態の変化)にある」と考えていることがわかる。よって、 ③ の「真に危機的なのは中心市街地では」は不適当であり、正解は ④ の「A-媒介として B-問題の本質はそこには」となる。

問2 正解

「商業行政を表わす対象と建設行政を表わすそれが含まれているか」、「両者の幸福な関係を表わす対象であるか」がポイントとなる。これらの条件を満たしているのは ① の「商業の振興と市街地建築・再開発行政」であろう。 ② の「商業ビル開発」と ③ の「都市再開発法」は、「幸福な関係」を突き崩すものと考えられるので、不適当である(④ の「規制緩和」もそのようなものであろう。もっとも、この語は本文では用いられていない)。

⑤ の「個店集積型の都市空間イメージと街路に沿った賑わい」は、いずれも建設行政に属するので、不適当である。 ⑥ の「戦災復興区画整理と街路に沿った賑わい」が紛らわしいが、商業行政に対応すると考えられる「戦災復興区画整理」は、これだけでは商業行政を表わすものとしては不十分であり(「区画整理によって整備された街路網をベースとして家業型の商業を発展させる」のが商業行政である)、 ⑦ の方が適当であろう。

問3 正解

最後の3つの文は、筆者が、中心街の危機は家業型の商業の衰退と企業型の商業への転換という根本的な流通構造の変化に規定されたものであること、街づくりを語るならばそうした変化を考慮しなければならないことを示した後で、「街づくり」の実現可能性、「街づくり」という観念それ自体に対する疑念を表明する箇所である。したがって、 ① の「現代ではいかに抗しがたいものになっているのか」、 ② の「世界的潮流であること」は不適当であろう。さらに、「商業の近代化などという名目での街づくり」の帰趨こそが本文で述べられていると考えられるので、 ③ の「現代では構造改革なしに実現し得ないこと」と ④ の「いまだかつて成功したためしがいいこと」も不適当である。よって、正解は ⑤ の「現代ではいかに空虚なものになっているのか」である。

第11問

【全体コメント】 筆者の主張を正しく把握できているかどうかを測る問題。筆者は、シンガーの「動物の解放論」を紹介したうえで、その問題点と思われるものを示し、批判を加えている。論旨は明快であり、設問も標準的なレベルである。

問1 正解

筆者によれば、シンガーは「動物の解放論」を唱え、「動物の解放」を黒人解放・女性解放・同性愛者解放の延長線上で考えているが、「動物の解放」にはその他の解放に共通する「相互承認」という契機が欠けている。人間が動物に対して道徳的に振る舞うだけでなく、動物もまた人間に対して道徳的に行為するときのみ、相互承認が成立していると言えるのであるが、動物に人間と同じ道徳原則に従うように要求することはないのだから、「動物の解放」を他のものと并列に論じることはできない。こうした内容と重なるのは、の「動物にまで道徳概念を適用すると、お互いに権利を認め合うという道徳の基盤が失われ、道徳概念の実質が損なわれることになる」である。の「動物にまで道徳概念を適用すると、いったいそれは哺乳類までなのか、魚も含めるのか、その適用範囲が不明確になる」は、「動物に道徳概念を適用することはできない」とする本文の議論とはずれる。の「動物に対して人間が何をなすべきなのか、何をなしてはいけないのかははっきりしなくなる」は、「動物が人間に対してどんな道徳的行為をなすべきかが不問にされている」という筆者の考え方とは異なる。の「動物をも道徳的に人間と対等のものと思なすことになり、道徳概念を不当に拡張することになる」は紛らわしいが、本文で「動物は...道徳的な行為主体として理解することはできないだろう」と明言しているので、不適當であろう。の「むしろ動物を擬人化することになり、かえって動物差別の実態をばかしてしまう」に相当する記述は本文にはない。

問2 正解

問1と重なる設問である。末尾の「人種差別や性差別に対する解放運動と、動物の解放運動は決定的にレベルを異にしている、と言わなければならない」がヒントになるだろう。大事なのは、筆者はシンガーの挙げる論拠(に基づく「動物の解放」)を批判しているだけであって、「動物の解放」それ自体を批判しているわけではない、ということである。したがって、正解はの「人間だけを特別視する人間中心主義を捨てなければ動物の解放を主張できないとする考えは間違っている」であろう。の「「動物の解放」は無意味であり、人間が動物を利用することは正当なことである」、の「いかなる動物解放運動も成り立ち得ない」は言い過ぎである。また、の「動物差別の本質は、動物を道徳的行為主体として認めないという点にこそある」は、筆者の議論とは反対の方向性を持つ主張であり、の「いまや「道徳」概念及び「道徳的な行為主体」という概念が変更されるべきであることを示している」については、本文には「道徳概念を変更したり拡張したりすべきだ」という論点は含まれていないので、不適當である。

第12問

【全体コメント】 空欄補充および下線部の意味や理由を問う問題。2つの時間(あるいは時間意識)の差異は明らかであり、解きやすい問題と言えよう。

問1 正解

「ポリクロニック」な時間と「モノクロニック」な時間は異質であるとされ、後者は「ひものように直線的」と形容されているのだから、正解はこれとよく似た表現を含む の「道のように帯状のものではなく」であろう。

問2 正解

「ポリクロニック」な時間が支配しているギリシャでは、「ふりかかる問題はひとつずつかたづけるのではなく、すべてかかえこんで処理しやすいものからかたづける」のだから、依頼する側もそうした時間意識に従った行動様式を取るはずであろう。したがって、空欄Bに入るものとして最も適当なのは、問題に直線的な仕方に対処することを表わす の「列をつくって並んで待つ」であろう。

問3 正解

「歌舞伎のように終日えんえんとつづく伝統演劇では、はじめからおわりまでいくつように舞台を見ろといった観劇作法は観客にもとめられてはいない」以下で、歌舞伎の鑑賞法が説明されている。選択肢の記述をその箇所と照らし合わせてみると、 の「歌舞伎のような伝統芸能を見る場合には、ただ演劇を見ていなければならないということではなく、鑑賞しながら会食やおしゃべりすることも許されるようになっている」が最も適当であることがわかる。 の「歌舞伎を見るということは実は従なのであって、主たることは人間的なかわりである」は言い過ぎであろう。 の「ポイントを見落とさなければ、十分に筋を楽しめるように出来ている」は、本文の「歌舞伎などは筋を線的に追って見るものではなく、いわゆる見せ場、見どころを点として楽しむものである」とはややずれる。 については、「歌舞伎のような伝統芸能では、複数の小さなストーリーが同時進行的に展開する」といった記述は本文にはない。 についても同様で、本文には「歌舞伎のような伝統芸能の鑑賞は...すべきことがおおよそ了解できるようになっている」というような記述はない。

問4 正解

論旨を把握していれば解答は容易であろう。下線部の直前にある「「ポリクロニック」な時間の支配するところでは、その場に参加している者の主要な活動がなんであるか一義的には決めがたいほど、密度のこい副次的活動が許容されている」がヒントになるだろう。注意したいのは、居眠りは複数の活動が同時進行している状態である、ということである。 の「不作法」、 の「前近代的」は本文の議論とはずれる。 の「いろんな副次的活動をするのがなければ、居眠りがしたくなるほど疲れたりはしない」は、居眠りと副次的な活動を切り離してしまっているので、不適当である。 と のどちらであるかやや迷うところだが、「居眠り」はそのための時間をわざわざ確保して行うようなものではないので、 の「何かをしながら眠れるような時間を確保できない」は不適当であろう。よって、 の「「モノクロニック」な時間の支配するところでは、睡眠は決まった時刻にとるべきだとする社会的抑止力が働くから」である。

以 上